

令和元年 5 月 31 日
環境省自然環境局国立公園課

民間競争入札実施事業
「那須平成の森運営管理業務」の自己チェック資料

① 「実施要項における競争性改善上のチェックポイント」の対応状況

- ・平成 26～28 年度業務より、以下の点を改善した
 - －現地説明会の開催
 - －類似業務の経験を必須項目から加点項目に変更
 - －従来の実施状況に関する情報（実施経費、人員等）を開示
- ・平成 29 年度～令和元年度業務より、業務を 2 つに分割し、入札参加を容易にした

② 実施状況の更なる改善が困難な事情の分析

本業務については、元御用邸用地であった豊かな自然を維持しつつ、同用地の一部を国民が自然に直接ふれあえる場として活用してはどうかとの天皇陛下のお考えを受け、国民に自然ガイドによる上質なサービスを提供するものであり、インタープリテーションや安全管理に関する極めて高度な専門性が求められる業務である。

以下に、極めて高度な専門性の一例を記載する。

○環境教育を目的としたインタープリテーションを実施するため、米国の国立公園で策定されている「インタープリテーション計画」の考え方を取り入れており、社会情勢や社会ニーズの変化を踏まえて計画の改定も行っている。

○環境省が平成 20 年 3 月に、那須御用邸用地の一部を国民が自然に直接ふれあう場として保全整備を図る上での基本的な方針を取りまとめた「日光国立公園「那須の森（仮称）」」において、「自然体験、学習活動、あるいは、自然環境管理活動の指導者養成のためのナショナルセンターの役割を目指す」と規定されていることから、全国規模のインタープリター育成研修を自ら行えるだけの専門性を有した職員を配置している。

研修実績：環境省「自然解説指導者育成事業」、文部科学省「野外教育企画担当者セミナー」

○那須平成の森のプログラムでは、森やいきものの不思議さ、複雑さ、面白さなどについて体験により気付く、感じることを通して「人と自然との共生」

「生物多様性」といった目に見えないことにまで考えを巡らせることをテーマとしており、それらを参加者に伝えるためにはプログラム実施者が生態系や環境問題に関して深い知識を有しているとともに、それを参加者に伝えるための技術が必要である。

- 自然環境は常に変化しており、その時の状況（植物の芽生え、天候、キノコの発生具合、動物の痕跡等）やプログラム参加者の関心（年齢、自然環境に対する関心度等）に応じて解説を行っている。解説の中では双方向のコミュニケーションに努め、参加者とのやりとりやアンケートを通して環境教育のねらいが伝わっているかを常に確認し、実施後もPDCAサイクルの中で改善を図っている。
- 利用者に対する傾聴、共感、伝え方の工夫などコミュニケーションスキルの向上を図るスタッフトレーニングを実施し、利用者の満足度を高められるような取組を行っている。
- 野外活動における様々なリスク（ツキノワグマ、ハチ、有毒な植物、那須岳の噴火、落石等）に対して参加者の安全確保を図るため、リスクマネジメントに関するガイドラインを設け、無線機の携帯や参加者への注意喚起などを常に行っている。たとえば、スタッフが事前に下見をする際にツキノワグマに遭遇しているため、ツキノワグマに遭遇した際に本人と参加者を安全にその場から退避させることができる知識、技術、経験を有したスタッフを配置している。

我が国において、自然ガイド業界は経済的に恵まれているとはいえ、こうした上質なサービスを提供できる組織が極めて限られている。

また、過去に請負事業者とは別に何者か入札や入札説明会に参加している実績があるが、ビルの管理などを行っている者であり、自然解説などの実績のある事業者ではないため、必要とされる水準のサービスを提供することは困難と考えられる。